



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

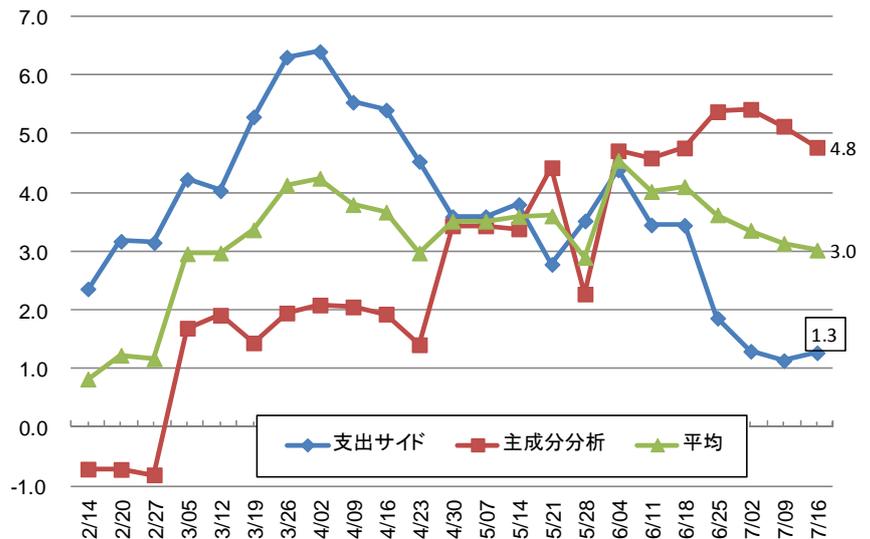
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2012年7月16日)

ポイント

- ▶先週は、6月の国内企業物価指数、輸出入物価指数、5月の民間機械受注、情報サービス業売上高、第3次産業活動指数、鉱工業生産指数(確報値)及び国際収支が更新された。
- ▶これらは、民間企業設備、民間企業在庫品増減、政府最終消費支出及び純輸出の予測値に影響を及ぼす。
- ▶5月の公務等活動指数は前月比-0.2%と2ヵ月ぶりのマイナス。この結果、4-6月期実質政府最終消費支出の予測値は先週から下方修正。
- ▶6月の景気ウォッチャー現状判断DI、消費者態度指数、いずれも前月から悪化した。企業、消費者ともに心理は横ばいとなっており、先行きの民間需要の減速を示唆している。
- ▶6月の輸出入物価指数を更新した結果、4-6月期の実質純輸出の予測値は先週から小幅上方修正された。
- ▶今週のCQMは、4-6月期の実質GDP成長率を前期比年率+1.3%と予測。先週(+1.1%)から小幅上方修正された。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q2 (%、前期比年率換算)



<6月の景気ウォッチャー、消費動向調査の結果は、先行き民間需要の減速を示唆>

先週(7/9-7/13)は、6月の景気ウォッチャー調査、消費動向調査、国内企業物価指数、輸出入物価指数、5月の民間機械受注、情報サービス業売上高、第3次産業活動指数、鉱工業生産指数(確報値)及び国際収支が更新された。これらのデータは、民間企業設備、民間企業在庫品増減、政府最終消費支出及び純輸出の予測値に影響を及ぼす。

5月の第3次産業活動指数は前月比+0.7%上昇し、5ヵ月ぶりのプラスとなった。エコカー補助金や復興需要の効果による卸売・小売業の好調が影響している。うち、5月の公務等活動指数は同-0.2%と2ヵ月ぶりのマイナス。この結果、4-6月期実質政府最終消費支出の予測値は前期比+0.4%となり、先週(同+0.5%)から小幅下方修正された。

6月の景気ウォッチャー調査によると、現状判断DIは3ヵ月連続で前月比低下した。また同月の消費者態度指数は2ヵ月ぶりに悪化した。企業、消費者ともに心理は横ばいとなっており、先行きの民間需要の減速を示唆している。

2010年基準の国内企業物価指数及び輸出入物価指数が発表された。6月の国内企業物価指数は前年比-1.3%と3ヵ月連続で下落した。輸出物価指数は同-4.3%下落し28ヵ月連続のマイナス。輸入物価指数は同-3.1%低下し3ヵ月連続のマイナスとなった。この結果、4-6月期の実質純輸出の予測値は先週から小幅上方修正された。

実質民間企業設備と純輸出の予測値は上方修正されたが、実質政府最終消費支出と民間企業在庫品増減の予測値が下方修正されたため、今週(7/16)のCQM(支出サイド)は、4-6月期実質GDP成長率を前期比年率+1.3%と予測する。先週の予測(+1.1%)から小幅の上方修正である。内需は緩やかに回復しているが純輸出は縮小している。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550